

平成26年度

港区ごみ減量優良事業者等表彰 受賞者の紹介

受賞者

延床面積 5000㎡以上

- 伊藤忠商事株式会社東京本社ビル
- ホンダ青山ビル
- 三菱 UFJ 信託銀行港南ビル

延床面積 1000㎡以上 5000㎡未満

- 大和ライフネクスト株式会社本社ビル

(規模別ビル名五十音順)



港区は、事業所が集積する都心区という地域特性から、区内から排出されるごみの大部分を「事業系ごみ」が占めるという特徴があります。

「事業系ごみ」の減量を着実に進めるためには、事業者による“ごみの発生抑制”“リサイクル（資源化）への取組”が必要不可欠となっています。

そのため「事業系ごみ」の減量とリサイクルの一層の推進を図るために、平成21年度に「港区ごみ減量優良事業者等表彰制度」を創設し、模範的な取組により、高いリサイクル率を達成するなどの顕著な実績を上げている事業者等を表彰しています。

これらの優良事業者の模範的で優れた取組事例を、区のホームページなどで広く紹介することや、区内事業所への立入指導の際に効果的に活用し、事業者による更なる自主的な取組を促進し、「事業系ごみ」の減量・資源化を図るための一助として役立てていきます。

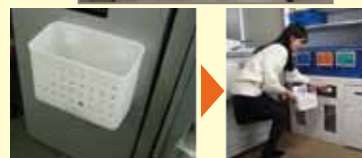
港 区

伊藤忠商事株式会社東京本社ビル

受 賞 者	伊藤忠商事株式会社
建 物 所 在 地	北青山 2-5-1
建 物 属 性	オフィスビル（本社ビル）
延 床 面 積	89,301 m ²



紙コップは、水気を含む為、給湯室の紙ごみ入れに捨てます。



帰宅時などにゴミの種類により、各廃棄場所に分別してすてましょう。

表彰理由

グループ会社が入居しており、外来者も含めると在館人員が1日平均5000名を超える大型の事業所です。総務担当部門と館内清掃業者が連携を密に図りながら、ごみの減量とリサイクルの推進を円滑に進めています。

●特筆すべき優れた取組は以下の3点です●

- ① オフィス内には独自の「ダストキャビネット」を、また給湯室・トイレにも専用容器を設置し、排出場所毎の、ごみと資源の分別体制が確立されています。
- ② 新入社員や希望する部署やグループ会社を対象に実施している「館内環境ツアー」や環境責任者会議の実施を通して廃棄物を含めた環境への啓発を継続的に実施しています。
- ③ 館内清掃業者との連携により、フロア毎の前年度との対比データを「3色リサイクルBOX記録表」として社内イントラで公表することや分別等が不適切なフロアがあれば写真に記録し、排出元に注意喚起と是正を行っています。

受賞者の声

伊藤忠商事東京本社ビルは、1980年に竣工した地上22階、地下4階のオフィスビルで、現在伊藤忠グループ合わせて約4,400名が在籍しています。1997年に総合商社として初めてISO14001を取得し、伊藤忠グループ「環境方針」に掲げる「省エネルギー・省資源」「廃棄物の削減・リサイクル」を推進するために、約40名の環境責任者と約220名のエコリーダーが中心となり館内従業員が協力して、身の回りのことから環境保全活動を実施しています。

リサイクル率の向上に関して、まず、オフィス内の廃棄物を館内従業員が、自ら体を動かして分別する取り組みを始めました。具体的には各執務スペースに「コピー用紙」「新聞紙」「雑誌その他」に分別する「3色分別ボックス」を設置しました。その後、「3色分別ボックス」に加えて、「不燃ごみ」、「3色分別ボックスに入れることができない紙ごみ等」「廃棄する重要文書」「ダンボール」「廃文具回収」を分けけた、省スペース・コンパクトなダストキャビネットを導入すると共に、机周りの共有ゴミ箱を廃止しました。「手元分別」の原則に則り、ゴミは出たところで分別してしまう、つまり館内従業員一人ひとりが、自分の机の横にマグネットでつけてある「個人用ボックス」から「ダストキャビネット」へ自ら足を運び、自分で自分のゴミは責任をもって分別することにより、リサイクル率向上に繋がっています。さらに、館内清掃業者と協力し、廃棄物をさらに減容し分別を強化することにより総合的に90%以上のリサイクル率を維持しています。

館内従業員に対しては「啓蒙活動」として、不適切な分別に対してはその都度指導・改善を促すと共に、ビル内から回収された廃棄物が実際にどのように集積され、廃棄処理委託されるかを現場で具体的に説明し、自分の目で見て体験してもらう「館内環境ツアー」を行い、一人ひとりの分別の重要性を理解してもらうと同時に協力を得ています。

今回、「港区ごみ減量優良事業者等」表彰を受賞したことは大変光栄で、この受賞を励みとして今後もさらに館内従業員・清掃業者と協力して廃棄物の削減、リサイクル率向上に取り組んでいきます。

ホンダ青山ビル

受賞者	本田技研工業株式会社
建物所在地	南青山 2-1-1
建物属性	オフィスビル（本社ビル）
延床面積	40,225 m ²



表彰理由

「豊かで持続可能な社会」の実現に向けて、日本のみならず世界的にも、環境先進企業であるために、環境負荷低減への取組に挑戦しています。

●特筆すべき優れた取組は以下の3点です●

- ①分別表の改定を行い、独自の専用容器を配置することで、ごみと資源の分別体制が整備されています。その際、「不明ごみ」という項目を設けることで、不適正な混入を防ぐ工夫がされています。
- ②毎月フロア毎のOA紙使用量・ごみ発生量などを「青山ビルスマートエコ（環境情報ニュース）」として社内で発信することで、ごみの減量・リサイクルの推進についても、ビルとしての啓発を継続的に行っています。
- ③社員食堂では、カット野菜やレトルト食品の使用によりビルとしての排出抑制に取り組んでおり、また食べ残しなどの生ごみは、すべて肥料にリサイクルされています。

受賞者の声

ホンダ青山ビルは本田技研工業(株)の本社ビルとして1985年7月に南青山二丁目に竣工しました。地上16階、地下3階からなるオフィスのビルで1階がショールームになっており、約1,100名が在籍しております。

環境への取り組みを展開していくうえで、従業員一人ひとりの環境意識を高める為、自らができることは確実に実行していく環境マナー21項目を定め「Honda Green Action」と称して活動をし、地球環境を保全するグリーンオフィスを目指しております。1995年、オフィスとしては早い段階でISO14001を認証取得しており、CO₂発生量、水使用量、コピー紙使用量、廃棄物発生量を環境負荷削減項目と定め、環境マネジメントシステムの有効性を活用し継続的に改善を行っています。

廃棄物の削減活動では、ビル内での発生量抑制とビル外への排出量削減に取り組んでいます。

廃棄物発生量の抑制では従来設置していたオフィスエリアのゴミ箱を廃止し、新たに各フロア2箇所にタワー型ゴミBOX設置し、8種類の分別を徹底しています。また、昨年よりプリンターにI C認証方式を取り入れ、印刷する際に内容を再度確認させることにより、不要な印刷が抑制され前年比4%ほど減少しました。社員食堂においても、カット野菜使用による不可食ロスの抑制と、夕食の予約制導入、クイッククック追加対応により残食の抑制に取り組んでいます。従業員への意識付けとして「見える化SYS」を導入し、廃棄物発生量の計画と実績を各フロアのモニターに表示することで、取り組みに対する一助としています。

各フロアから地下集積所に集められ計量管理を行った後、内容物の最終確認を行い、適正な廃棄処理を行うとともにリサイクル率の向上や、一部古紙の有価物化によって廃棄物排出量の削減につなげています。

今回、弊社の取り組みに対し評価戴きましたことに感謝するとともに、今後も更なる廃棄物削減を目指し取り組んでいきます。

三菱 UFJ 信託銀行港南ビル

受 賞 者	三菱 UFJ 信託銀行株式会社
建 物 所 在 地	港南 2-9-8
建 物 属 性	オフィスビル(テナントビル)
延 床 面 積	37,423 m ²



表彰理由

グループ会社等が入居しており、「本店ビル」と同様に環境負荷低減を目指す拠点として、様々な取組を行っており、環境に対する意識は高く、館内におけるごみと資源の徹底した分別の実践ができています。

●特筆すべき優れた取組は以下の3点です●

- ①各階の執務室・給湯室・ごみステーションや食事等休憩フロアの各排出場所毎に専用容器を設け、独自の分別チラシにより、ごみと資源類を17種42品目に分けて、適正な分別が実践できています。
- ②各部署の分別状況をチェック・点数化・評価し、上位の部署を表彰するなど、正しい分別の定着を図るため創意工夫した取組を実施しました。
- ③分別状況の結果報告やごみ減量等の取組については、社内メールで配信し、また建物内に掲示することで、社員等が成果を共有し、ごみ・資源についての高い分別意欲が維持できています。

※裏表紙のビル全景写真については、事業者の都合により掲載していません。

受賞者の声

当ビルは平成3年3月に竣工した地上10階地下3階のオフィスビルです。当社の他にグループ会社3社がテナントとして入居しており、約1,700名が在籍しております。当ビルでは、平成21年度から「オフィス運動」としてコピー用紙・電気使用量の削減、廃棄物のリサイクル向上へ向け運動を展開しております。

具体的には、以下の項目の施策を立案して運動を進めております。

- ①コピーの両面印刷の徹底、②プリンターの両面印刷・集約印刷設定の推進、
- ③ゴミ分別ルールの見直しとテナント向け説明会実施、④オフィス運動啓発ポスターの掲示

また、ゴミの分別が正しく行われているか、年に数回抜き打ちチェックを行い、コピー用紙の使用量と合わせて、結果を休憩室等に掲示してフィードバックすることにより、在館者への啓発に努めております。

これらの「オフィス運動」の結果、コピー用紙使用量は当初より23%の削減、廃棄物リサイクル率は96%となっております。オフィス運動を始めてから6年経ったこともあり、ビルに在籍する社員1人1人の環境負荷低減への意識とその取組は十分定着してきたと思われます。

今般私共が地道に行ってきた「オフィス運動」が評価され、優良事業者として表彰して頂くことを感謝申し上げますとともに、受賞を励みとして今後も省資源化・リサイクルに取り組んでまいります。

大和ライフネクスト株式会社本社ビル

受 賞 者	大和ライフネクスト株式会社
建 物 所 在 地	赤坂 5-1-33
建 物 属 性	オフィスビル（本社ビル）
延 床 面 積	4,243 m ²



表彰理由

住宅メーカーのグループ企業ですが、企業市民としての社会的責任（CSR）を果たすべく、積極的に地域の清掃活動や発展途上国へのリユース品の提供活動も行っています。

●特筆すべき優れた取組は以下の3点です●

- ①廃棄物（資源ごみ含む）の分別ルールを定め、色別で分かりやすい分別案内と分別容器をセットで設置することで、ごみと資源の分別体制が確立されています。
- ②各部署の若手社員を担当者にして、社内誌によるリレー形式で各部署の環境負荷低減につながる取組事例を紹介するなど、継続的に啓発を行っています。
- ③企業の社会的責任（CSR）についても、高い意識を持ち、環境美化活動を通して、地域の環境保全活動にも積極的に取り組んでいます。

受賞者の声

当社は、「人・街・暮らしを元気にする」という経営ビジョンを掲げ、不動産管理事業を営んでおります。当ビルは1997年に竣工した地上4階、地下1階の自社ビルで、約300名の社員が在籍しております。

廃棄物処理については、各階にごみ分別BOXを設置し、毎日従業員が退社時に各人のごみ箱から分別BOXに分別処理しています。また、社内イントラ上で、ビルからのごみ種類別の排出量を毎月掲載しています。

当社は、お客様との契約書や提案資料等、紙での出力が多い業態です。その中でここ数年にわたり、紙を中心としたリサイクル率の向上に努めてまいりました。大きな改善としては、今まで書類について、シュレッダーできないものに関しては完全焼却ごみとして排出してありましたが、2年前から溶解処分に移行することで、紙については100%のリサイクル率を達成することができ、全体のリサイクル率も76%から88%まで向上しました。

また、毎月1回、本社の有志の社員が、当ビルから赤坂見附駅周辺にかけ、清掃活動（アドプト活動）を実施しています。こちらの活動は、港区のLOOP-Xビルに入居している事業部の活動からスタートした活動で、ビル内だけでなく周辺地域のクリーンアップ活動を実施することで、社員一人一人が地域の方々への感謝の気持ちや環境負荷削減の意識をもって日々業務を行っています。

弊社としましては、今回の受賞を励みとし、更なるごみの減量化・リサイクル率の向上に努めてまいりたいと思います。



伊藤忠商事株式会社東京本社ビル



ホンダ青山ビル



大和ライフネクスト株式会社本社ビル